

# 「みんな『笑顔』に！地域密着！PTA活動」

芥見東小学校PTA 会長 加藤 拓真 副会長 三輪 智治 副会長 白井 正人  
副会長 鈴木 みどり 書記 杉浦 和美 書記 宇野 香 書記 松野 好美  
会計 後藤 奈津代 会計 浅見 美奈 相談役 山田 大介

## 1. はじめに

地域と密着してきたPTA活動の紹介と、これから私たちが目指していく活動をご紹介します。芥見東校区は、岐阜市の東端、関市との境にあります。40周年を迎えた歴史の新しい学校です。1980年、好景気に沸いた高度成長期に山を開拓して作られた団地は児童数も増え続け、一旦は芥見南小学校と分離されましたが、バブル崩壊などを経て児童数は激減し、南小は再び東小と統合し今にいたります。

## 2. 実践1「地域との連携」

芥見東小校区は、登下校の良くし隊、総合的な学習の時間での山田川の清掃、ふれあい行事など、様々な活動の中で子どもたちは地域の方に支えられ、もうコミュニティスクールになっていると言われるほど、地域・学校が協力しています。私たちPTAも学校周辺の清掃活動、スポーツフェスティバル、夏祭り、みんなの祭りなどに参加しています。こうした長年の地域活動の積み重ねが、芥見東小PTAの実践の1つです。



## 3. 実践2「ゆるキャラの開発」



「関心が薄い保護者の方に見えるPTA活動を展開」「地域活動で目立たせて子どもたちとの距離をグッと縮めたい」と、PTA活動を盛り上げるゆるキャラを開発しま

した。そしてP-1000が誕生。(ターミネーターの「T-1000」に由来)PはPTAのPです。P-1000は季節や行事に応じて華麗に変身します。

## 4. 実践3「地域に貢献できる活動の第一歩」

さらに、子どもたちが縦割り班でゲームやクラフトのお店を企画運営する学校行事「なかよしフェスティバル」に参戦しました。そこで車いす体験に決定しましたが、そ



の経緯は、山田前会長が高校時代に、坂道で車いすに乗ったおばあさんをおじさんが押しているところに遭遇したとき、何も助けてあげられなかったエピソードがキッカケでした。「箸や鉛筆やハサミのように、誰でも当たり前のように扱えるよう、子どもたちに車いすの使い方を体験してほしい」と強く思ったそうです。この地域の深刻な高齢化問題もありました。(高齢化率

1997年約13%→2012年約32%)

子どもたちが体験するにあたり、危険なことがないか車いすの試乗や、分かりやすい説明書き、興味を持たせる解説づくりなど工夫を凝らしました。前日には、校舎内に段ボールのスロープや、デコボコした道などのルートを作りました。当日は多くの子どもたちが体験し、「実際に困っている人がいたら助けてあげたい」などの感想がありました。



## 5. これから

年々児童数は減少していく見通しです。裏腹に、高齢化率は加速していくでしょう。しかし、実践発表を準備する中で地域の方が、子どもたちのことを本当に大切にしてくれていること、真剣に見守ってくれていることを実感しました。地域に組み込まれたありがたいこと、PTAが胸を張れることだと実感しました。こんな地域に支えられて育つ子どもたち。この子どもたちが地域の方たちを支えていける存在になってほしいと思います。今回の私たちの実践はその第一歩です。

高齢とは名ばかりの、フットワークの軽い先輩方と恵まれた自然に囲まれ、子どもたちが生き生きと歩んでくれることを願うとともに、お年寄りから赤ちゃんまで、みんな笑顔で暮らせる、地域密着のPTA活動を引き継いでいきます。

芥見東小学校区のこれから

芥見東小PTA  
子どもたちを  
まんやかに  
芥見東 芥見南

地域を支え、地域を支える活動に